

平成 29 年度 東京都内湾水生生物調査 2 月成魚調査 速報

●実施状況

2 月 20 日の成魚調査時の各地点の概況を下表に示す。調査当日は中潮で満潮 7 時 34 分、干潮 13 時 44 分（東京都港湾局のデータ）であった。当日の調査時間帯の波浪は、0.1m 以下であった。今回の調査では、11 月調査時同様に、全調査地点において底層の貧酸素状態は確認されなかった。

調査地点	St. 10		St. 22		St. 25		St. 35	
調査時間帯	12:50~13:35		12:10~13:00		11:07~12:00		10:00~11:00	
水深(m)	7.0		13.9		15.5		25.8	
天候	快晴		快晴		快晴		快晴	
気温	9.0		9.8		7.8		7.8	
風向/風速(m/s)	南/3.5		南/1.3		南東/2.9		北東/1.5	
波浪(m)	0.1		0.1 以下		0.1		0.1	
水色	緑褐色		緑褐色		緑褐色		暗灰黄緑色	
透明度(m)	2.3		2.2		2.2		2.5	
観測層	上層	下層	上層	下層	上層	下層	上層	下層
水温(°C)	9.3	8.7	9.6	10.0	9.9	10.9	9.1	11.1
塩分	31.3	31.6	31.6	32.5	28.8	33.0	32.2	33.3
pH	8.5	8.3	8.5	8.2	8.3	8.2	8.3	8.2
DO(mg/L)	13.3	10.2	12.4	8.7	10.5	8.1	10.1	8.0
臭気	無し	無し	無し	無し	弱下水臭	無し	無し	無し
備考								

観測層：上層(0m)・下層(海底面-1m)

●主な出現種等(速報のため、種名等は未確定)

主な出現種等	St. 10	St. 22	St. 25	St. 35
魚種 (多い順 ^注)	マコガレイ (r)	ハタタテヌメリ (+)	テンジクダイ (r)	ハタタテヌメリ (c)
	アカエイ (r)	テンジクダイ (r)	ハタタテヌメリ (r)	
魚類以外	クシノハクモヒトデ (c)	ケブカエンコウガニ (G)	アシナガゴカイ (m)	ケブカエンコウガニ (m)
	イッカククモガニ (+)	フタホシシガニ (+)	ケブカエンコウガニ (m)	シヤコ (c)
	トリガイ (+)	マルバガニ (+)	チヨノハナガイ (r)	エビジャコ属 (c)
備考				

注) 表中の () 内の記号はだまかな個体数を表す。

G:1000 個体以上、m:100~1000 個体未満、c:20~100 個体未満、+:5~20 個体未満、r:5 個体未満

St.10

調査地点位置

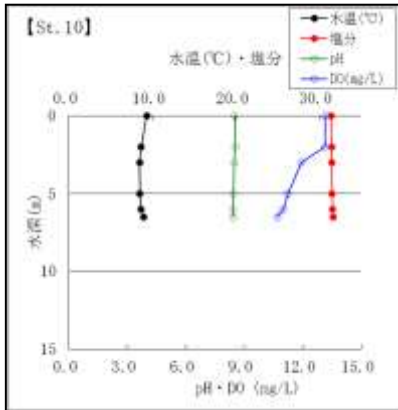


ディズニーシーの岸寄りに位置する。マコガレイ、アカエイのほか、クシノハクモヒトデ、イッカククモガニ、トリガイ、ケブカエンコウガニ、ホンビノスガイ、イワホリガイの一種等が確認された。

採取試料



水質の状況



マコガレイ

北海道南部から大分県に分布し、水深 100m 以浅の砂泥底に生息する。5月の調査時には、本調査地点以外の各地点で捕獲された。



アカエイ

沿岸の砂泥底に多く生息する。11月にも本調査地点で捕獲された。6月の稚魚調査では、葛西海浜公園の浅瀬で捕獲されている。尾には鋭い毒針を持っている。



トリガイ

房総半島から南に分布し、内湾の水深 5m~30m に生息する。東京湾においては重要な漁業対象種となっている。秋に着底した稚貝が 5月に殻長 60mm に成長し漁獲される。



ホンビノスガイ (外来種)

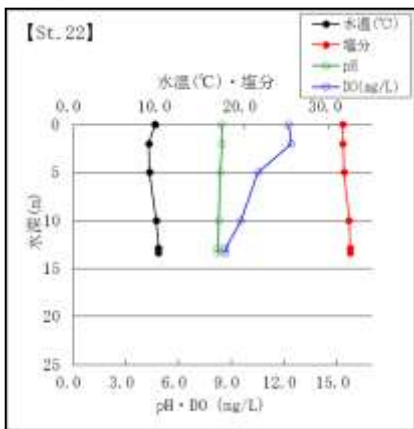
今では東京湾に定着しているが、北米原産の外来の二枚貝である。貧酸素にも比較的強い耐性を有する。千葉県では、漁獲対象種となっている。本調査地点では、毎回捕獲される。

St. 22

調査地点位置



水質の状況



ディズニーランドの約 3km 沖合に位置する。ハタタテヌメリ、テンジクダイのほか、ケブカエンコウガニ、フタホシイシガニ、マルバガニ、ヒメガザミ、イッカククモガニ、サルエビ、シャコ、スナヒトデ、アシナガゴカイ等が確認された。

ケブカエンコウガニは、全地点で確認されたが、St. 22 で最も多く捕獲された。

採取試料



テンジクダイ

本州中部以南の南日本に分布する。内湾から水深 100m くらいまでの砂泥底に生息する夜行性の魚である。小型甲殻類などを捕食し、1年ほどで成熟する。産卵期は7月から9月で、卵を口に含んで守る習性を持つ。



ハタタテヌメリ

石狩湾以南の各地の沿岸に分布し、内湾の泥底に生息する。最大 10cm 程度の小型種である。



イッカククモガニ (外来種)

北米大陸西部沿岸原産の外来種。貨物船などのバラスト水にまぎれて日本に定着したと考えられている。内湾の砂泥底に生息するカニで、東京湾奥部に多く生息する。貧酸素に比較的強く、優占種となることが多い。



ケブカエンコウガニ

東京湾から九州に分布し、泥地の水深 30m~100m の内湾に生息する。柔らかい毛で覆われている。本調査では、5月調査時にも、各調査地点で大量に捕獲された。

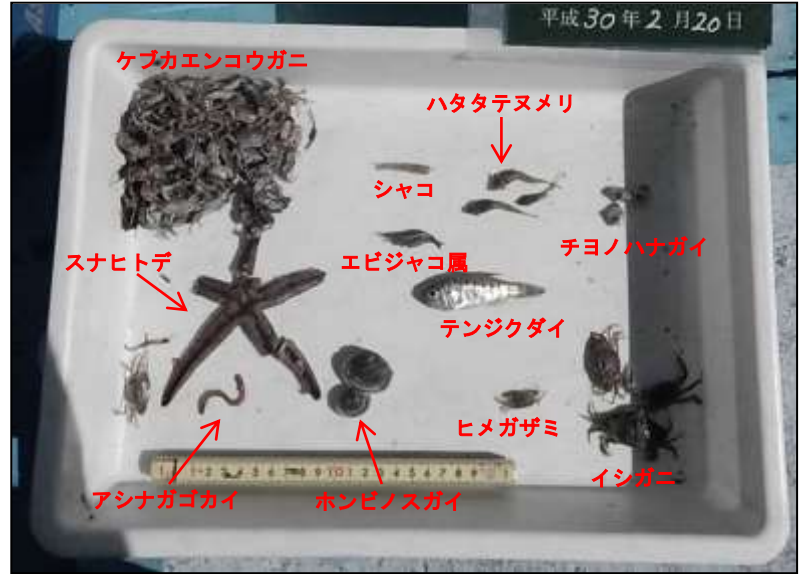
St. 25

調査地点位置

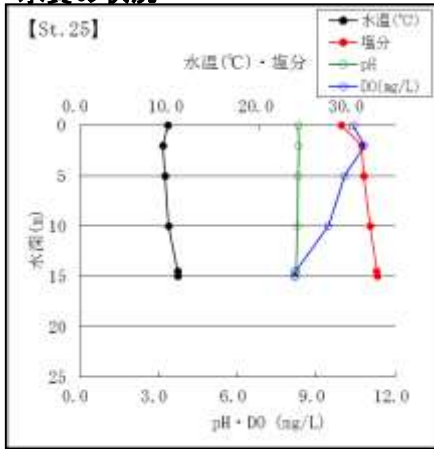


羽田空港の北東に位置する。テンジクダイ、ハタタテヌメリのほか、アシナガゴカイ、ケブカエンコウガニ、チヨノハナガイ、ホフタホシイシガニ、イシガニ、ヒメガザミ、エビジャコ属、シャコ、ホンビノスガイ等が確認された。

採取試料



水質の状況



テンジクダイ
東京湾の砂泥底に多く生息する。内湾奥部には少ない。底引網でかなり多く取れることがあるが、食品としてはあまり価値がない。本調査では、9月以外の調査時にも、多くの地点で確認された。



エビジャコ属
日本各地の内海、内湾の浅海帯に生息し、干潟の砂泥底で普通に見られる。佃煮あるいは生鮮食品として食される。本調査以外に稚魚調査でもよく捕獲される。



イシガニ
房総半島から九州に分布する。ハサミ脚は、左右で使用用途が違ふ。片方は食物を粉碎するのに使用するため、奥歯のような突起が発達する。もう片方は鋭く、つまむのに適した形をしている。



チヨノハナガイ
成貝でも殻長約 2cm で、半透明の薄い殻を持つ小型二枚貝。貧酸素に強い耐性を持つ。有機汚濁の指標種の一つとされている。本調査以外にも、5月の底生生物調査でも捕獲されている。

St. 35

調査地点位置

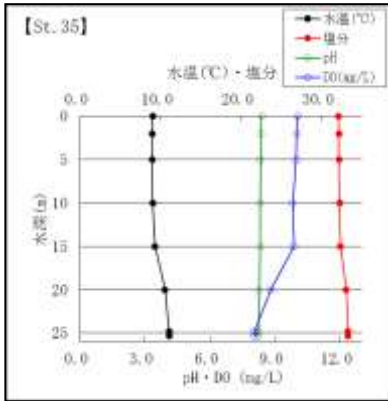


東京湾横断道の川崎人工島（風の塔）の北東に位置する。ハタタテヌメリのほか、ケブカエンコウガニ、ヒメガザミ、エビジャコ属、テナガテッポウエビ、シャコ、スナヒトデ、クシノハクモヒトデ、アラムシロガイの一種、アシナガゴカイ等が確認された。

採取試料



水質の状況



ハタタテヌメリ

東京湾部の底生魚類の代表的な種である。比較的に貧酸素状態に強い耐性を持つ。

テナガテッポウエビ

北海道西部以南に分布し、内湾や沿岸の浅海泥底部に生息する。本調査では、5月に本調査地点で捕獲された。

シャコ

内湾や内海の砂泥底、また河口の汽水域にも生息している。東京湾では15m~30mの深さに生息する。肉食性で魚類や甲殻類などを捕食する。本調査では、9月以外の調査時にも確認された。

スナヒトデ

西太平洋、日本沿岸に分布する。沿岸の砂底の浅い海から潮間帯にかけて、よくみられる大型のヒトデ。砂中の小動物や小型の貝を捕食する。本調査では、9月の調査を除き、多くの地点で確認された。